

# ひめぎん情報

Information from The Ehime Bank

特集

「辰年を翔る ～あなたの抱負を聞かせてください！～」



2024

新春号

No.302

## CONTENTS

2024 新春号  
No.302

# ひめぎん情報

Information from The Ehime Bank

- 1 **新春ごあいさつ**  
西川 義教／愛媛銀行 頭取
- 2 **－特集「辰年を翔る ～あなたの抱負を聞かせてください！～」－**  
**川之江港湾運送株式会社**  
代表取締役社長 三宅 正剛 氏（有志竟成の会、第11期塾長）
- 4 **－特集「辰年を翔る ～あなたの抱負を聞かせてください！～」－**  
**株式会社東洋印刷**  
専務取締役 村上 茉莉江 氏（有志竟成の会、第11期副塾長）
- 6 **－特集「辰年を翔る ～あなたの抱負を聞かせてください！～」－**  
**東予プラス工業株式会社**  
専務取締役 田坂 菊太郎 氏（有志竟成の会、第11期副塾長）
- 8 **－特集「辰年を翔る ～あなたの抱負を聞かせてください！～」－**  
**「有志竟成の会」とは**
- 9 **2023年の振り返りと2024年への期待**  
愛媛銀行 ひめぎん情報センター
- 11 **2023年 主な経済・時事ニュース**
- 12 **経済指標から振り返る2023年愛媛県経済**
- 13 **2024年 地域経済展望**  
田中 禎之／株式会社日本政策投資銀行 松山事務所 所長
- 16 **シリーズ 四国霊場を歩く(7)**  
**讃岐路の名所・旧跡を歩く**  
－崇徳上皇・源平合戦・玉取伝説－  
胡 光／愛媛大学法文学部教授／四国遍路・世界の巡礼研究センター長
- 18 **第101回愛媛県内企業動向調査結果**  
～2023年度上期実績、2023年度下期見通し、2024年度上期予想～  
愛媛銀行 ひめぎん情報センター



# 新春ごあいさつ



愛媛銀行  
頭取 西川 義教

明けましておめでとうございます。

2024年を迎えるにあたり、謹んで御挨拶申し上げます。

昨年は、コロナの5類移行に伴い、人流が回復したことから、国内経済は緩やかな回復が続きましたが、一方では、設備投資や消費拡大の足取りに力強さが欠けた面も残りました。政府は成長力底上げのため、今後3年程度を「変革期間」と定め、物価や賃金の伸び悩みから抜け出し、消費と投資が拡大する経済へ移行するための「スタートダッシュ」と位置付けています。今後、総合経済対策などの実施により、日本経済が本格的な成長軌道に乗ることが期待されます。

ところで、AIをはじめさまざまなデジタル技術の進化により、世の中は大きな転換期を迎えています。なかでもチャットGPTは急速に浸透しており、人手不足に悩む日本でも、業務の効率化や品質の向上をもたらすツールとして注目されています。当行は、昨年「DXアクション宣言」を行いました。デジタルの力で徹底した業務の効率化と変革を図るとともに、お客様に質の高い金融サービスを提供することで、地域の発展に貢献することを目指します。今や業種を問わず、時間や場所を選ばない、デジタルを活用したサービスが当たり前になっています。当行もアプリでNISA口座が開

設できるサービスを導入し、お客様の資産運用を支援しています。これにより、煩雑な書類を記入する負担がなくなっており、今後も、こうしたお客様にとって便利でお得な非対面サービスを充実させてまいります。

本年は、地域経済にとって明るい話題が盛りだくさんです。2019年から続いていた道後温泉本館の保存改修工事も12月に完成する予定です。また、松山空港発着の国際定期便も、昨年3月のソウル便の再開に続き、新たに釜山便が11月から就航しており、観光客の流入増加、消費の拡大に繋がることが期待されます。当行の県内経済見通しアンケート調査でも、こうした追い風もあり回復基調が続く見通しです。物価の上昇や賃上げの動向、さらには人口減少や少子高齢化、自然災害の多発、サステナブルへの対応など、地域を取り巻く課題は多岐にわたりますが、引き続き当行は、地域金融機関としてグループ一丸となって、お客様と伴走し、地域の持続性に貢献すべく、誠心誠意、尽力してまいります。

結びになりますが、本年の干支は甲辰（きのえたつ）です。成功という芽が成長していき、姿を整えていくという意味があります。皆さまにとって良き年となりますよう祈念申し上げます。御挨拶といたします。

# —特集「辰年を翔る ～あなたの抱負を聞かせてください！～」— 川之江港湾運送株式会社

代表取締役社長 三宅 正剛 氏  
(有志竟成の会、第11期塾長)

## 【会社概要】

会社名：川之江港湾運送株式会社  
設立：1887年  
資本金：7,000万円  
代表取締役：三宅 正剛  
所在地：愛媛県四国中央市川之江町番外1-10



## 事業紹介

今年で創業137年目の総合物流企業です。四国中央市に本社があり神戸支店、東京営業所、海外子会社としてカンボジアに拠点を設けております。社員数は128名(R6.1月現在)です。

当社の事業は海運事業・倉庫事業・陸送事業・内航船舶事業・国際物流事業（通関業含む）・太陽光発電事業・コンテナ販売事業の7つの事業構成となっており、国際物流事業では輸出・入（外国間取引）も多く行っています。祖業である港湾荷役から派生し、様々な輸送形態を構築しております。近年では神戸に物流センターを構えお客様の要望に応えるべく全世界への貨物のワンストップサービスを提供しております。

また新規事業としてコンテナハウスの販売を始めております。移動式の事務所や住居としての利用、テナント施設としても使えます。カスタマイズまで当社ですべて請け負いますのでご用命があれば是非ともご連絡ください。



本社物流センター



神戸物流センター

## 有志竟成の会に入塾して…

未だに塾長と呼ばれるのに慣れておりませんが、11期生約20名で和気あいあいと勉強させてもらっています。私のしていることと言えば飲み会とゴルフの段取りをするくらいですが（笑）。

同期や行員さんとの距離が非常に近く、この会が終わる頃には随分と仲良くなっているのだと思います。また卒業生も多いようなので期を跨いだネットワークが構築できればと思っています。

このような経営者や幹部候補の皆様との勉強会に参加する機会を与えて頂き、感謝の気持ちで必死に勉強していきたいと思っています。



内航船 雄正丸

## 今年の抱負

今年は新本社屋の建設や新倉庫の建設があり設備投資元年になります。社員が気持ちよく働ける環境作りには特に力を入れ相互理解が深まる関係性を構築したいと考えています。常に「挑戦と好奇心」を忘れずに一歩踏み込み期待を超えていきたいと思っています。



書道パフォーマンス甲子園ラッピングトラック



2024年6月竣工予定新社屋



# —特集「辰年を翔る ～あなたの抱負を聞かせてください！～」— 株式会社東洋印刷

専務取締役 村上 茉利江 氏  
(有志竟成の会、第11期副塾長)

## 【会社概要】

会 社 名：株式会社東洋印刷  
設 立：1950年  
資 本 金：4,200万円  
代表取締役：村上 忠  
所 在 地：愛媛県松山市六軒家町2番19号



## 事業紹介

1946年に村上友二が松山市で紙の卸問屋事業を始め、二代目村上恭一が食品パッケージの加工へ事業転換し、三代目村上忠がOAラベルの製造販売へと舵を切り…このように時代の流れと共に環境にアジャストしながらしなやかに生き抜いてきました。OAラベルの製造工場及び出荷ラインは完全自動化を目指して40年近く投資を続けており、中小企業なりのDXの参考例の一つにはなり得ていると自負しています。働き方としては2000年代初期から、いつでも、どこでも、働ける環境・制度づくりを進めており、配偶者の転勤に伴う勤務継続が困難な場合に転勤先にサテライトオフィスを開設するサテライトオフィス制度、各拠点をカメラとマイクで繋ぎデジタル上での1オフィスの実現、法定で決められている労働時間内で時間を調整しながら働くフレックスタイム制度、このような環境・制度をベースにフレキシブルな働き方を20年以上実現していることが当社の大きな特徴です。



六軒家1階会議室

全国47都道府県のお客様向けにOAラベルの製造販売を行っています。我々はラベルを「モノとデータのインターフェース」と定義しており、一見同じものに見える量産品にラベルを貼ることでユニークなものとして認知できる、すなわちいつ、どこで、だれが、生産したものか、等をバーコードとしてデータ化し、ラベルにバーコードを印字してリーダーで読み取ることで、機械も人間もその情報を認知できます。それによって万が一に不良品による機会損失を最小限に抑えられたり、配送ミスの削減、医療ミスの削減、等の効果をもたらす必需品です。

我々の商品ラインアップとしては規格サイズ3,000種類以上ある無地のラベルを過去の需要から予測した数を計画生産して自動倉庫にて保管し、受注当日もしくはおそくとも翌日には出荷するので短納期で商品をお届けできます。規格を作り、計画生産できる体制を構築したことで、機械は24時間稼働しながらも従業員の労働時間は8：30から17：30の時間を原則に勤務できるようになっています。



工場（外観）



工場（自動倉庫）

## 有志竟成の会に入塾して…

同世代の経営者の皆さんと学びあい、佳い刺激を頂いています。この会でなければ業種やエリアが異なるため出会うことのなかった仲間と出会えたり、ずいぶん前に知り合っていた仲間と再会できたり、といずれにしても同じふるさとを持つ仲間との関係を深める機会となっております。皆様の経営者としての考え方・振る舞いからは大変学びが多く、素晴らしい気付きを頂いています。この場を通じて、共に学び、関係性を深めていきながら、何か地域のために共に一歩を踏み出していけると素敵だなと思います。

## 今年の抱負

自社のビジネスもコロナの影響や物価上昇のダメージを受けており、大きな転換期を迎えております。時代に合わせるべきこと、そして変えざるべきこと、この見極めを誤ることなく、次の時代に向けて飛躍成長をもたらせるような意思決定をしていきたいと思えます。また自社のことだけでなく、愛媛FCという地域の宝をお預かりしている立場なので、愛媛FCというコンテンツを起点に、この街がもっと元気になっていくように、活力をもたらせるように、地域のためにできることを日々考え恐れることなく実行して参る所存です。

# —特集「辰年を翔る ～あなたの抱負を聞かせてください！～」— 東予ブラスト工業株式会社

専務取締役 田坂 菊太郎 氏  
(有志竟成の会、第11期副塾長)

## 【会社概要】

会社名：東予ブラスト工業株式会社  
設立：1976年  
資本金：2,000万円  
代表取締役：田坂 達哉  
所在地：〈本社工場〉愛媛県西条市今在家803番地  
〈多度津事業所〉香川県仲多度郡多度津町西港町1-1



## 事業紹介

当社は、船舶関連鉄板のショットブラスト（鋼材の塗装下地加工）を行っており、永年「鉄」の保護・サビ止めという基礎的処理を通じて、海事産業の発展に尽力してきました。また、海外子会社を保有しており、船舶貸渡業にも従事しています。

事業柄、船舶関連企業との繋がりが深く、愛媛県今治市のように海事産業が盛んに行われている地域で、造船にかかわれることが、今後とも当社の成長のカギを握っています。

ところで、昨今のコストプッシュ型の物価上昇、新制度導入などは中小企業にとっては大きな負担です。日米の金融政策の違いによるドル高・円安など、いくつものファクターがからむことで最終価格が跳ね上がり、投資リスクが高まるとともに、キャッシュが目減りしていくという問題も生じています。

当社では、加工、物流、船舶保有を総合的に絡めた展開を行わせていただくことにより多様化していく局面に、柔軟に対応できる体制の構築をめざしながら、地域の皆さまの期待に応えてまいります。



貨物船「CAPE SPENCER」  
今治造船株式会社様にて進水時



## 有志竟成の会に入塾して…

有志竟成の会に入塾して多角的なアイデアをインプット出来ることを体感しております。

まったく自分には直接関係がないトピックスのセミナーを受講しても必ず大なり小なりリンクすることがあったり、それに連なって皆様の意見を伺っている折に更に新たなリンクを発見できることが本会での最も意義ある瞬間と弊職は感じております。

男子、三日会わざれば刮目して見よ。の慣用句の通り有志竟成の会、開催初期と後期での違いを自他共に感じて欲しく精進したく存じます。



貨物船「AFRICAN LEOPARD」

## 今年の抱負

今年も初志貫徹、新年に作成しましたNew Year Resolutionの内容を軸とし、公私共に研鑽を重ねて行く所存でございます。

引き続き抱負内の2024年問題へのタックルの仕方や世界経済情勢、国内情勢、今後のweb 3.0の根幹であるブロックチェーンの仕組みやそれに伴うビジネスチャンスとして何が話題になるか？などの探求をしたく存じます。



# —特集「辰年を翔る ～あなたの抱負を聞かせてください！～」— 「有志竟成の会」とは

## 創設経緯

2010年9月、若手経営者塾である三樹会（さんじゅかい）（1～3期生）が創設されました。その後、名称を変えて2014年5月、青雲の会（4～7期生）として運営され、2019年4月これらの後継塾として有志竟成の会（ゆうしきょうせいのかい）（8期生～）が創設されました。

有志竟成とは「志ある者、事（こと）竟（つい）に成る」という歴史書『後漢書』からいただいた言葉で、堅い志を持つ者は、いかなる困難に遭っても必ずその志を成し遂げる、という意味です。

2023年度は11期生（中予地区8名、東予地区8名、南予地区4名 合計20名）が入塾し、DX、SDGs、人財育成、マネジメント向上など経営に関する知識を養い、同期と交流しています。

## 目的

愛媛県内で事業を行う若手経営者が、経営に関する知識を学び、県内経営者との交流を図り、県内経済の発展に貢献していくものです。

## 卒塾生

塾名	創設	会期	卒塾生
三樹会	2010年9月	1～3期	57名
青雲の会	2014年5月	4～7期	59名
有志竟成の会	2019年4月	8期～10期	74名

### 「三樹」とは

国のために、1年の計画を立てるのであれば、1年で収穫できる穀物を植えば良い、10年の計画を立てるのであれば、10年で大きくなる樹を植えば良い、一生涯の計画を立てるのであれば、人を育てることである。

※中国の故事「管子」からの引用

### 「青雲」とは

地位を高め、学徳を積み、世のため、人のため、国家のために身命を賭す覚悟や志、決意のこと。

※同じく中国の故事からの引用

### 【11期生例会の様子】





# 2023年の振り返りと2024年への期待

愛媛銀行 ひめぎん情報センター

謹んで新年のお祝いを申し上げます。本年も変わらぬご愛顧のほど心よりお願い申し上げます。

## 2023年の振り返り

昨年を振り返ってみると、2023年は変化の多い一年だったように思います。例えば2023年前半には、新型コロナウイルス感染症の5類への移行、ChatGPTをはじめとする生成AIの急速な普及などの出来事がありました。夏には全国各地で記録的な暑さを観測しました。2023年後半には、改正消費税法が施行され、インボイス制度が導入されました。また、2022年頃から押し寄せた物価高騰の波は、2023年になっても止まらず、度重なる値上げが家計を圧迫しました。また、出来事一つ一つのインパクトも大きく、我々の経済活動や生活環境にも多大な影響、変化をもたらしたかと思えます。本稿では、2023年の主なトピックスをいくつか振り返りつつ、2024年への期待、今後の展望を考えてみたいと思います。

### 【2023年の主なトピックス】

#### ● 新型コロナウイルス感染症の5類への移行

2020年初めから続いた新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の5類へと移

行されました。外出の自粛や自宅待機などの行動制限が解除され、中止となっていたイベントなども少しずつ再開されました。人の動きがコロナ禍前に戻りつつあり、駅や空港、観光地などでは外国人観光客の姿をよく見かけるようになりました。また、働き方をはじめコロナ禍によって変化・進展してきたものをコロナ禍前に戻すか否か、個人や企業の判断に委ねられるようになりました。

#### ● ChatGPTをはじめとする生成AIの急速な普及

さまざまなコンテンツを生成できるAIの登場は世間に大きな衝撃をもたらしました。2022年11月のChatGPTのリリース以来、ChatGPTをはじめとする生成AIの利用が急速に広がっています。2023年は生成AI元年との声もあり、身近になったAIをビジネスや教育の現場などで利用する事例も増えてきています。生成AIでビジネスがどう変わるか、今後も目が離せません。

#### ● 記録的な暑さ

2023年夏は、世界各地で記録的な猛暑となりました。日本においても、2023年は最も暑い夏となり、全国の平均気温が1898年の統計開始以来最高を記録しました。こうした事態に、国連のグテーレス事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、

“地球沸騰”の時代が到来した」と述べ、気候変動対策を加速させるよう求めました。

### ●インボイス制度の導入

2023年10月から、消費税の仕入税額控除の方式としてインボイス制度がスタートしました。制度の趣旨は、領収書や請求書に消費税額などを明記し、税金の流れを正確に把握しようというものです。税金に関する制度ということは知っているても、具体的な対応はよくわからないという声や、事業者によっては、税負担が増えるが登録しないと取引が減らされてしまうなどの懸念の声も聞かれました。

### ●物価高騰の波

食料品や日用品、電気・ガスなど、生活に欠かせないあらゆるモノやサービスの価格が上昇し、家計を直撃しました。食料品における値上げ品目数は、記録的な値上げラッシュが起きた2022年（2万5,768品目）を上回り、2023年はバブル崩壊以降最大級の値上げラッシュとなりました（帝国データバンク「食品主要195社」価格改定動向調査）。世界経済の情勢は不透明さを増しているため、物価高騰の波も引き続き着地点が見えづらい状況になっています。また、物価高騰を踏まえて最低賃金の引き上げ額はこれまでで最も大きく、全国加重平均で時給1,004円と、初めて1,000円の大台に乗りました。

## 2024年への期待

2024年は、20年ぶりに新紙幣が発行されます。新一万円札には日本経済の発展に大きく貢献し、「日本の資本主義の父」と称される渋沢栄一がデザインされるこ

とからも、新紙幣の発行による経済・社会への好影響を期待したいところです。また、今年働き方改革に関する法律が4月から適用されます。労働環境が改善される一方で、売上の減少や人手不足などの問題が懸念されます。「2024年問題」の行方に注目が集まります。愛媛県内においては、道後温泉本館の改修工事が大詰めを迎えており、夏頃には全館営業を再開できる見通しです。リニューアルによる観光と地域の盛り上がりにも期待がかかります。

先述の2023年の主なトピックスに象徴されるように、昨年はあらゆるものが変化し、不確実性が高まる一年でした。昨年に限ったことではありませんが、近年はこれまでに経験したことがないような変化が次々と起きています。このような現代の環境を「VUCA時代」という言葉で表現されることもあります。先の読めない時代だからこそ、物事・出来事を俯瞰的に捉えつつ、多様な選択肢に目を向けることが必要であるように思います。

2024年は辰年。辰年は万物が振動するので、活力旺盛になって大きく成長し、形がととのう年だと言われています。2024年が皆さまにとって素敵な一年になりますようお祈りいたします。





# 2023年 主な経済・時事ニュース

2023年	 国内の主なニュース	 海外の主なニュース	 愛媛の主なニュース
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●経団連が春闘指針、賃上げは「企業の社会的責務」</li> <li>●闇バイト、各地で強盗傷害事件が相次ぐ</li> <li>●大手企業、相次ぎ国内従業員の年収アップ打ち出し、物価高対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日米首脳会談、同盟強化で一致</li> <li>●米大手IT企業、1万人規模のリストラ続く</li> <li>●「円滑化協定」に署名、日・英が準同盟国に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●インドネシアと経済交流の覚書締結、愛媛県ほか</li> <li>●脱炭素社会実現へ覚書、愛媛県とインドネシア・コロンタロ州</li> <li>●石鎚黒茶（西条）、国重要無形民俗文化財へ</li> <li>●大型EVバスの路線導入、伊予鉄バス</li> <li>●椿まつり開催、3年ぶりに露店復活</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●飲食チェーン店で客による迷惑行為の投稿が相次ぐ</li> <li>●生成AIの人気沸騰</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国製のスパイ気球疑感めぐり米中が対立</li> <li>●トルコ・シリアでM7.8の地震、死者5万人超</li> <li>●ウクライナ侵攻から1年、各国に動き</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●愛媛マラソン、3年ぶり開催</li> <li>●松山・道後地区の水族館構想が中止</li> <li>●インドネシア副大臣が来県、環境技術を視察</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●H3ロケット打ち上げ失敗</li> <li>●東日本大震災から12年</li> <li>●岸田首相、ウクライナを電撃訪問</li> <li>●国産量子コンピュータが稼働</li> <li>●文化庁、京都で業務開始</li> <li>●訪日外国人、月180万人まで回復</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国全人代、習氏3期目、台湾統一に決意</li> <li>●尹韓国大統領が初来日</li> <li>●米金融機関の経営破綻続く</li> <li>●仏、年金改革法案を強行採決で成立、各地で抗議デモ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●持続可能な観光地、大洲が世界1位</li> <li>●「愛南の真鯛」、養殖水産物のBAP認証を取得、真鯛での認証は世界初</li> <li>●松山ーソウル線3年ぶり再開</li> <li>●県内大学生の就職内定率98.3%（3月末時点）、過去10年で最高</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●こども家庭庁が発足</li> <li>●日銀・植田新総裁、本格始動</li> <li>●経産省、関電など5社に業務改善命令</li> <li>●卵不足・価格高騰が続く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●フィンランドがNATO正式加盟</li> <li>●G7外相会合、対中口で結束、共同声明発表</li> <li>●スーダンで内戦激化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●県内銭湯の大人料金50円値上げ、450円に</li> <li>●波方ターミナルをアンモニア供給地点へ、複数企業が協議会設立で合意</li> <li>●物価高騰対策に31億円あまり専決処分、愛媛県</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●岸田首相、初訪韓</li> <li>●新型コロナ5類移行、インフルと同等扱いに</li> <li>●G7広島サミット開催</li> <li>●岸田首相、長男・翔太郎秘書を更迭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●米、政府の債務上限引き上げで原則合意</li> <li>●英国王が戴冠式、70年ぶり</li> <li>●北朝鮮、「人工衛星」発射を予告、発射するも失敗とみられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●パリシップ、4年ぶりのリアル開催</li> <li>●JR四国、運賃値上げ</li> <li>●2050年カーボンニュートラルに向け行程表作成、四国中央市カーボンニュートラル協議会</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●LGBT理解増進法、改正入管法ほか、新法案が続々成立</li> <li>●岸田首相、「次元の異なる少子化対策」表明、来年から</li> <li>●日経平均株価が上昇基調に、33年ぶり最高値更新</li> <li>●マイナンバー関連のトラブル相次ぐ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ウクライナ情勢、原発の取水ダム爆破、決壊</li> <li>●ウクライナ情勢、民間軍事会社「ワグネル」反乱</li> <li>●トランプ前大統領、機密文書の隠蔽疑惑などで起訴</li> <li>●仏、警官の少年射殺で抗議激化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●連結トラックの公道走行実験、四国初</li> <li>●松山東警察署新庁舎が完成</li> <li>●西条発電所1号機が営業運転を開始</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電動キックボードの走行ルール緩和、16歳以上・無免許で公道走行可</li> <li>●マイナンバー巡り、デジタル庁に立ち入り検査</li> <li>●ビッグモーター、保険金の不正請求問題で失面に</li> <li>●IAEA、福島第一原発の処理水海洋放出を支持する見解</li> <li>●梅雨の影響、日本各地で大雨続く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●NATO首脳会議、インド太平洋との連携強調</li> <li>●国連安保理でAI初会合、軍事利用で意見に隔たり</li> <li>●G20エネ相会合、共同声明見送り</li> <li>●カンボジア、フン・セン氏が首相辞任</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●23年県内路線価0.9%下落、全国3番目の下落幅</li> <li>●移動交番車、県内初導入、中山間地・離島などで利便性向上へ</li> <li>●鉄道・路線バス運動の実証実験、JR予土線</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●福島第一原発の処理水、海洋放出開始</li> <li>●そごう・西武労働組合、61年ぶりにストライキを決定</li> <li>●全国的に猛暑続く、異常気象といえる</li> <li>●ガソリンの小売価格、過去最高値を更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ハワイ・マウイ島で山火事</li> <li>●日米韓、首脳・閣僚級会議を毎年開催</li> <li>●タイ、新首相にセター氏</li> <li>●カンボジア、フン・マネット新政権が発足</li> <li>●中国政府が日本向けの団体旅行を解禁、3年半ぶり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お盆の航空機予約（松山発着便）、コロナ禍前を上回る</li> <li>●四国新幹線の実現へ調査を、4県知事に国に要望</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ビッグモーター本社を家宅搜索</li> <li>●核のごみの処分地調査受け入れず、長崎・対馬市長</li> <li>●岸田首相が内閣改造、女性閣僚が過去最多5人に</li> <li>●100歳以上の高齢者数9.2万人、過去最多</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●モロッコでM6.8地震、死者2,000人超える</li> <li>●G20、首脳宣言を採択、ウクライナでの武力行使を反対</li> <li>●リビア東部で洪水</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●愛媛観光の魅力をPR「ひめ旅部」始動</li> <li>●新居浜・東予港の脱炭素計画を策定、西日本初</li> <li>●松山市、プレミアム付商品券発行、物価高対策</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●インボイス制度開始</li> <li>●最低賃金の全国平均、初の1,000円超え</li> <li>●政府、オーバーツーリズム（観光公害）の対策パッケージを提示</li> <li>●全銀システムで丸2日の障害、一部銀行で振込できず</li> <li>●日銀、金利操作を再修正へ、長期金利上限「1%めど」に拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●イスラエルと武装組織ハマスが軍事衝突</li> <li>●リゾート地にハリケーン直撃、メキシコ</li> <li>●中国、有人宇宙船の打ち上げ成功、ステーション運営が軌道に</li> <li>●国連、ガザの「人道休戦」を決議採択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新型コロナ県内医療体制変更、治療薬は一部自己負担に</li> <li>●運賃値上げ・運転士不足で減便、伊予鉄道・バス</li> <li>●愛媛県の最低賃金897円に、44円引き上げ</li> <li>●ふるさと納税、県が返礼品の共同開発などで9町を支援</li> <li>●「ねんりんピック」開催</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「デフレ完全脱却のための総合経済政策」を閣議決定</li> <li>●クレジットカード決済、全国的に使えなくなる障害発生</li> <li>●麻布台ヒルズ開業、あへのハルカスを超える日本一の高層ビル</li> <li>●LINE、個人情報40万件超が流出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ガザの病院、攻撃続き「医療システム崩壊」</li> <li>●北朝鮮、衛星載せたミサイル発射</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●坊っちゃん列車、全便運休へ、深刻な運転士不足</li> <li>●松山ー金山定期便就航</li> <li>●愛媛FC、J3優勝・J2復帰決定</li> <li>●東京で四国と秋田の合同物産展開催、「貧乏くさい」発言を逆手にPR</li> </ul>
12月	—	—	—

※執筆（12月1日）時点のニュース一覧です

# 経済指標から振り返る2023年愛媛県経済

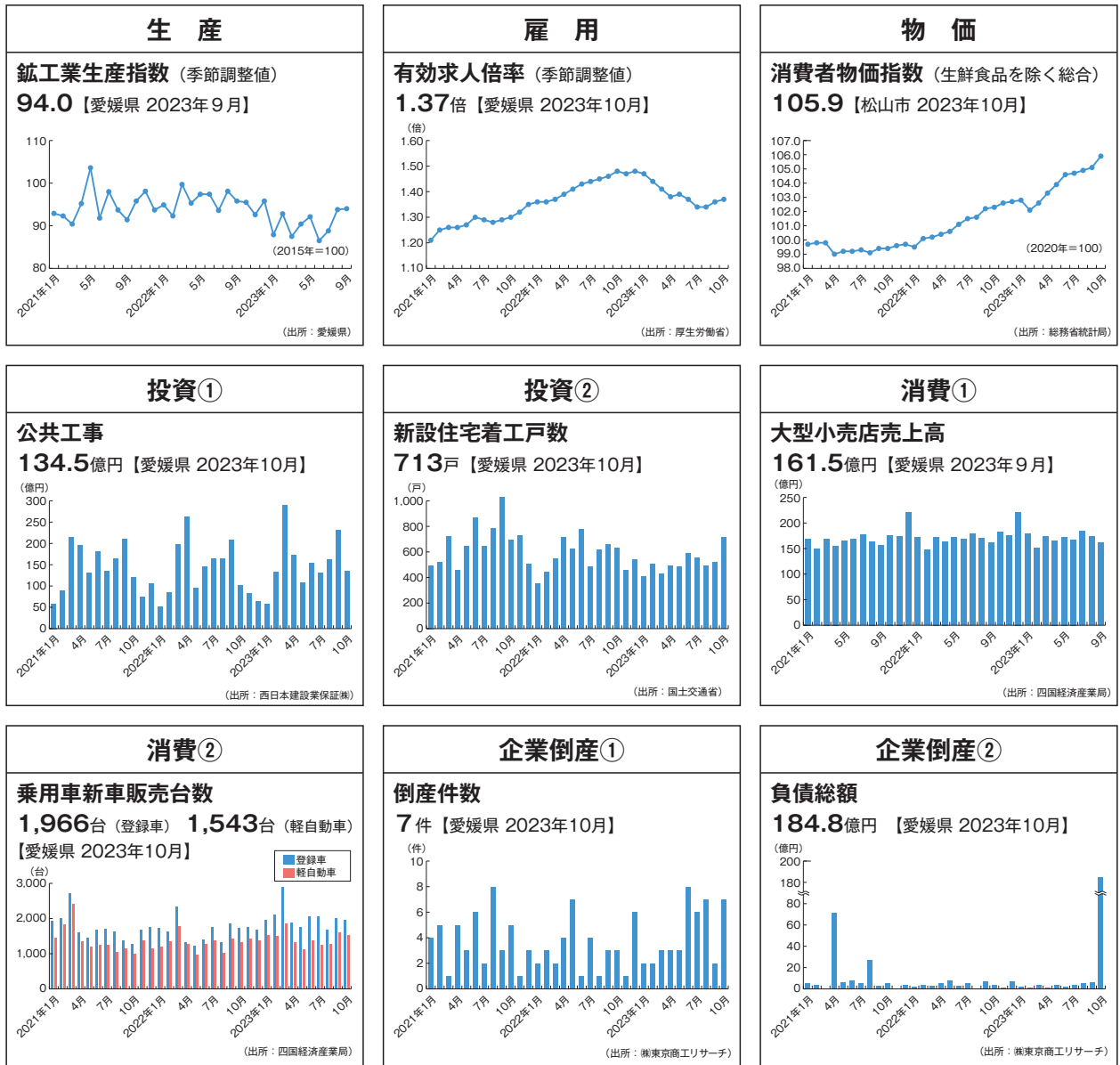
## 経済概況

「一部で弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。」

【前回との比較】 

出所：愛媛県「最近の県内経済情勢（令和5年10月分）」

## 主要経済指標



(2023年12月1日時点)



# 2024年 地域経済展望



株式会社日本政策投資銀行 松山事務所  
所長 田中 禎之

昨年のひめぎん情報新春号にて、世界経済の見通しについて、「最悪の事態はこれからだ」というIMFのコメントを引用させて頂きました。今年は、「安心するのは時期尚早だ」となります<sup>1</sup>。表1の通り、2023年は物価上昇、各地での紛争、度重なる自然災害などの困難に直面しつつ、世界経済はレジリエンス（危機に直面した際に、立ち直り、適応していく力）を発揮し、実質GDP成長率は3.0%と当初想定（2.7%）から上振れました。2024年についてもそれらの困難は続いており、更に利上げによる景気後退、中国経済のデフレ懸念など新たな問題も見込まれるため安心できないが、成長率は2.9%と概ね維持されるというのがIMFの見立てです。

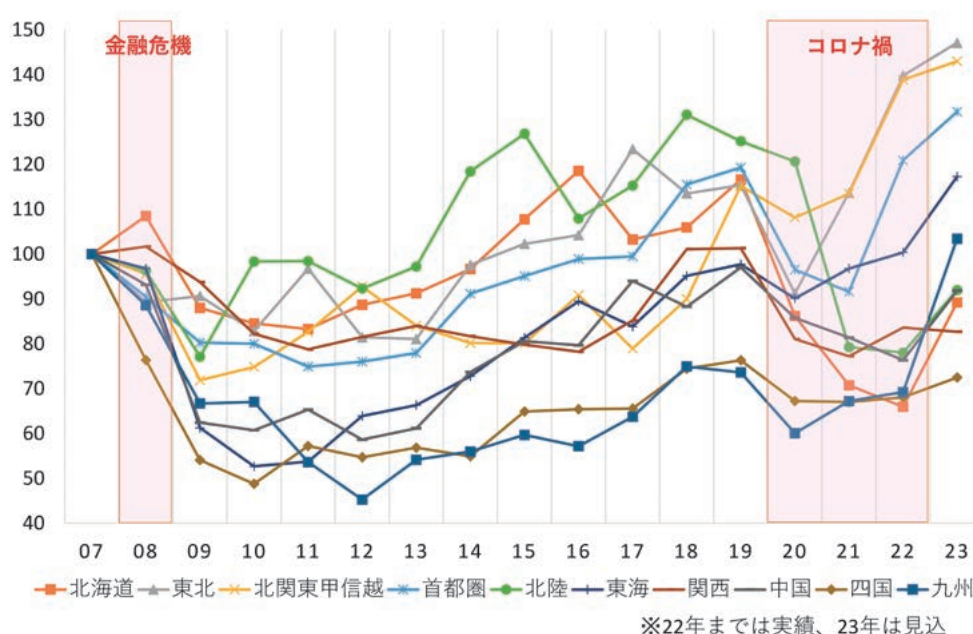
日本経済についても、2023年はコロナ禍からの回復が鮮明となり、リベンジ消費やインバウンド需要（訪日外国人旅行者）などに牽引され、実質GDP成長率は2.0%と当初想定（1.6%）から上振れました。特筆すべきは、長く続いてきたデフレ経済からの脱却が視野に入ってきたことであり、物価調整前の名目GDP成長率は5%を超える水準です<sup>2</sup>。足下、上場企業の業績が好調であることも納得できますが、一方で家計は物価高・実質賃金の低迷により節約志向が高まっているかと思われます。2024年は、民間消費と設備投資が牽引して実質GDP成長率は1.0%と予想されていますが、賃金と物価の好循環が実現していけば、妥当な見立てと思われます。

表1：実質GDP成長率～23年10月時点IMF見通し（カッコ内は22年10月時点）

実質GDP成長率 (%)	2022 実績	2023 見込	2024 予想
世界	3.5	3.0 (2.7)	2.9
先進国	2.6	1.5 (1.1)	1.4
米国	2.1	2.1 (1.0)	1.5
ユーロ圏	3.3	0.7 (0.5)	1.2
日本	1.0	2.0 (1.6)	1.0
新興国・途上国	4.1	4.0 (3.7)	4.0
中国	3.0	5.0 (4.4)	4.2
インド	7.2	6.3 (6.1)	6.3

さて、当地（四国・愛媛県）経済の見通しはどうでしょうか。弊行では、毎年設備投資計画調査を実施していますが、昨年の調査によると、2023年度に四国では前年度比21%増の設備投資が計画されています<sup>3</sup>。全国平均が20%であることを踏まえると、悪くない数値といえるでしょう。ところが、金融危機直前の2007年度に遡って、設備投資水準の推移を地域毎に比較してみると、その格差が拡大していることが分かります（表2）。従来から東高西低の傾向はみられましたが、着目すべきは足元で九州が大幅な伸長をみせている点です。台湾の半導体メーカーであるTSMCの熊本への誘致にあわせて、関連する日系企業の建設ラッシュが生じていることがその理由です<sup>4</sup>。また、北海道でもラピダスが国産の最先端半導体工場を建設する計画があり<sup>5</sup>、こうした地域では今年の調査でも恐らく高い伸びが期待され、地域間の格差は、今後更に拡大し、当地が取り残されることを懸念しています。

表2：地域別の設備投資水準の年度推移（2007年度=100：縦軸）



2024年を迎えるにあたり、まず我々は、現在大きな転換期を迎えているとの認識と心構えを持つことが重要だと思います。第一に、日本はデフレ経済からの脱却が近づいており、継続的な物価上昇と金利の復活（マイナス金利政策の解除）を前提に対応をしておく必要があるという点です。企業としては、物価上昇にあわせて賃金の引き上げが求められるとともに、人手不足に直面しており、生産性向上が不可欠です。足元で既に長期金利は上昇していますが<sup>6</sup>、物価上昇を考慮すれば、低金利のうちに借入をして成長に向けた投資（投機ではなく）を行うことは、経済合理性に適った企業行動といえます。また、家計としても、預貯金は、利率が依然としてゼロ近傍なので、物価上昇により実質的にその資産価値は目減りしていることとなりますので、資産運用の見直しが必要です。国も資産運用立国の実現に向けて、様々な支援措置を講じていますので<sup>7</sup>、できる限り活用するのがよいでしょう。

第二に、地域間競争の様相が変わってきたという点です。地政学リスクの顕在化によって、国は安全保障の観点で半導体の誘致・国産化を推し進めています。九州や北海道は国の支援を活用して、地域の雇用拡大・産業活性化に繋げています。都市（東京・大阪・名古屋）対地方という従来の構図に加えて、地方対地方の競争が鮮明になっており、特に人口減少対策などの各地域共通の課題を考える上で重要な視点です。例えば、人口の社会増減は、地域の相対的な魅力で決まるため、都会に比べて豊かな自然、食、伝統的な文化だけでは、地方間の競争に勝つことはできません（多くの地方において同様に存在するため）。改めて他の地域における最新の動向や取組みを知り、当地のあり方・戦略を再考する必要があるでしょう。

当地においても、この転換期をチャンスと捉えて、従来の殻を破って新しい取組みに果敢に挑戦して貰いたいと思います。国策的なプロジェクトを呼び込む以外にも、当地ならではの取組みが必ず見つかるはずです。また、各企業においても、自社の成長に向けた挑戦に一步踏み出して貰えればと思います。直ぐにはその効果や結果は得られないかもしれませんが、そうした取組みを続けていくことが、将来に亘る地域や企業にとっての本当の強みや魅力に繋がるはずです。本年が当地の未来を変える契機となることを期待しています。

---

<sup>1</sup> 参照元：International Monetary Fund『World Economic Outlook 2023 Oct』～なお中国については、23年11月時点で、23年見込、24年予想をそれぞれ0.4ポイント引き上げている。

<sup>2</sup> IMF試算による日本の物価上昇率（GDPデフレーター）は23年3.6%、24年3.1%。

<sup>3</sup> 参照元：日本政策投資銀行『2023年度設備投資計画調査』～国内の資本金1億円以上の民間企業が対象。なお、愛媛県は大型投資もあり2023年度は49.8%増。

<sup>4</sup> 設備投資計画調査にはTSMC自体の投資は含まれていない。TSMC新工場の稼働予定は24年。更に最先端半導体向け第二、三工場建設も計画中との報道が出ている。

<sup>5</sup> 25年パイロットライン稼働、27年に量産を開始する計画。

<sup>6</sup> 23年10月末時点の日本の長期金利（10年国債利回り）は0.9%台を推移している。

<sup>7</sup> 例えば、NISA（少額投資非課税制度）の拡充・恒久化が24年から実施される。





# 讃岐路の名所・旧跡を歩く

— 崇徳上皇・源平合戦・玉取伝説 —



愛媛大学法文学部教授  
四国遍路・世界の巡礼研究センター長  
胡 光  
(えべす ひかる)

## 讃岐の札所

津屋崎村（福岡県福津市）の豪商佐治家一行7人が、江戸時代の弘化2年（1845）に行った四国遍路の記録「四国日記」（佐治洋一氏蔵、福岡県立図書館保管）を読み進めます。船で三津浜に上陸し、太山寺を打ち初めに四国を北上、55日で一周します。日記には、日々の歩いた距離、札所数、接待数、宿泊場所、費用、食事などが詳細に記録されており、今回は、弘法大師誕生所善通寺を拝し、金毘羅見物をした後に進んだ、讃岐路の様子について紹介します。

3月27日早朝に訪れた七十六番札所金倉寺（善通寺市）を皮切りに歩みを進めます。このあたりの中讃地域では、備中国（岡山県）から接待に来ており、接待の地「四国」の特徴がみえます。金倉寺では、銭・草鞋・はったい粉・香物、七十七番道隆寺（多度津町）では、餅など多種多様な接待がありました。

以後の讃岐路は、八十八番大窪寺（さぬき市）をはじめ、いくつかの山岳寺院がありますが、伊予路の横峰寺・三角寺や雲辺寺で記された「厳しい急坂」「急で長い坂」のような困難な表現はなく、平地といくつかの坂道を繰り返し越えていきます。ただ道程が全体の四分の一を超える頃には、疲れも溜まってきたようで、宿にて繰り返し灸をすえています。

山上の札所では、その景色を楽しんでいます。八十二番根香寺では、「石段が高く景色が良い。目下に高松城下を見下ろし、右に屋島・八栗があり、島々が見えて、源平の古戦場の様子をしばらく見る」と記されます。



八十二番根香寺の石段

## 崇徳上皇の旧跡

讃岐路では、源平古戦場のような名所・旧跡の記録が目につきます。

七十九番崇徳天皇社（天皇寺・坂出市）は崇徳上皇を祀る御宮とあり、八十一番白峯寺（同市）も崇徳上皇の御霊を祀ることが記されていて、平安時代末の保元の乱で敗れ、讃岐に流された崇徳上皇ゆかりの旧跡が紹介されます。

さらに、白峯寺には、上皇の霊をなぐさめるために源頼朝が建てたという石塔や多数の門の存在が記されており、これらの建造物は現在、国指定重要文化財となっています。上皇と交流のあった西行が白峯寺にある上皇の墓に参った時、上皇の怨霊が現れる話は、江戸時代に上田秋成が著した小説『雨月物語』に収録され、広く知られていました。このような上皇の記憶をとどめる白峯寺には、下馬石があり、大名でも乗物を降りることも記されています。

元禄2年（1689）に寂本が著した『四国徧礼霊場記』に、天皇社は神社建築の本殿が描かれています。八十三番一の宮（高松市）も現在の一宮寺ではなく、隣接する田村神社でした。同書には田村大

明神の本殿が描かれます。一方で、日記には、神社であることは認識しながらも、本尊は、正観音菩薩と記し、神も仏も同時に拝する神仏習合の日本文化の様子がよく分かります。

この後、すでに紹介した通り、法然上人が讃岐に流されたときのゆかりの寺である法然寺にも参詣しています。

## 源平合戦の記憶

「高松」城下町の名は、屋島の対岸にある源義経ゆかりの源平合戦地の名をとって、城を築いた生駒親正が名付けたもので、その後、松平家の治める城下町として栄えます。元々の「高松」の地は「古高松」と呼ばれて源平合戦の記憶をとどめています。

八十四番屋島寺は、源平合戦の時からある古寺と記され、途中、佐藤継信の墓や洲崎寺にも参っています。継信は、屋島合戦の時に平教経が放った矢を義経の代わりに受けて亡くなり、洲崎寺の戸板で運ばれました。松平家初代頼重は、継信を顕彰するため、遍路道脇に記念碑を建てており、この碑も見物したと思われ



八十五番八栗寺から屋島を望む

## 竜宮伝説と海女の墓

八十六番志度寺（さぬき市）では、海女の玉取伝説が書きとめられ、海女の墓にも参っています。志度寺は、推古天皇の時代に流れ着いた霊木で本尊十一面観音像を造り、藤原不比等・房前父子によって再興されたことが重要文化財「志度寺縁起」に描かれています。唐の皇帝から藤原鎌足に贈られた宝珠が志度沖で竜神に奪われます。海女と結婚した不比等は、宝珠奪還を依頼し、海女は乳房を切って珠を隠して奪還に成功しますが絶命して

しまいます。その子房前が志度寺を再興するのです。志度寺沖は、竜宮につながり、浄土につながる海と信じられていました。

玉取伝説は、能の演目としても知られ、祭礼彫刻や刺繍にも多用されています。この地には、海女の墓や房前・真珠島などの地名が残り、伝説を今に伝えています。



八十六番志度寺の海女の墓

## 讃岐の風景

道沿いの風景が記録されているのも、この日記の特徴です。丸亀城下町には、うどん屋があり、坂出村には、塩田が多く、引田に至る村々では、全て砂糖を作っていることが記録され、貴重な産業史料となっています。広大な塩田風景や、牛が回ってサトウキビを搾るため、円錐形をした砂糖締小屋は特徴的な光景として印象に残ったことでしょう。

志度の町は、大きな門前町として記録されますが、泊ったのは宿屋ではなく、無料の善根宿でした。この町では「修行」と称して「門付」（寄付依頼）をしています。筑前を代表する豪商が行うこれらの行為は、四国遍路の原点である「修行の旅」の姿と、旅人・住人ともに救済する弘法大師への信仰をよく表しています。

### 【参考文献】

伊予史談会『四国遍路記集』伊予史談会双書、1981  
塚本明・近藤浩二・胡光「巡礼と『道中日記』の諸相」『2013年度四国遍路と世界の巡礼公開講演会・公開シンポジウムプロシーディングズ』愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会、2014  
愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編『四国遍路の世界』ちくま新書、2020  
愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編『四国遍路と世界の巡礼（上）最新研究にふれる八十八話』創風社出版、2022

# 第101回愛媛県内企業動向調査結果

～2023年度上期実績、2023年度下期見通し、2024年度上期予想～

愛媛銀行 ひめぎん情報センター

## 【調査要領】

調査対象	愛媛県内に事務所を置く企業 977社 (回答企業数 335社 回答率34.3%)
調査方法	Webによるアンケート調査
調査時期	2023年10月
調査期間	実績：2023年度上期 (2023年4月～2023年9月) 見通し：2023年度下期 (2023年10月～2024年3月) 予想：2024年度上期 (2024年4月～2024年9月)

## 【回答状況】

業種	回答企業数(社)	構成比(%)	
全産業	335	100.0	
製造業	製造業	63	18.8
	建設業	45	13.4
	農林水産業	12	3.6
非製造業	卸売業	33	9.9
	小売業	34	10.1
	不動産業	13	3.9
	運輸・通信業	33	9.9
	サービス業	102	30.4

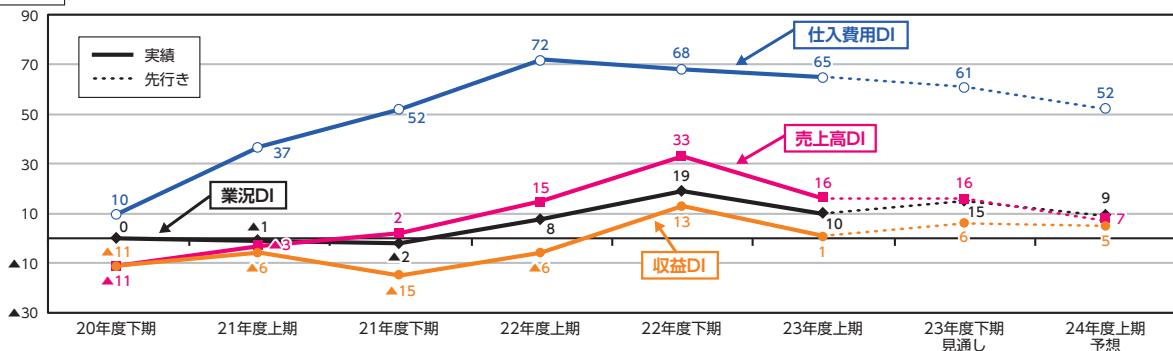
※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

## 【要約】

### 業況

- 2023年度上期業況DI（実績）は+10と前回より低下。仕入費用DI（実績）は+65と、前期より低下しているものの依然高い水準。
- 先行きについては、仕入費用の減少傾向がありつつも、慎重な見方をしている企業が多い。
- 2023年度上期の設備投資実施企業は、全産業で37%。2023年度下期は41%、2024年度上期は38%の見通し。

## DI推移



### 原材料価格等の上昇による価格転嫁

- 価格転嫁を既に実施している企業は、製造業は約6割、非製造業は5割未満。今後（見通し・予想）価格転嫁を実施する企業は製造業では減少、非製造業では増加する見込み。
- 約5割の企業が、50%以上の価格転嫁率まで向上している。中でも非製造業は、転嫁率80%以上の企業が増えた。



## 人員と時間外労働

- 人員が不足している企業は、製造業・非製造業ともに6割以上。人手不足を解消するには賃上げや福利厚生充実の充実などが必要と考えている企業が多い。
- 非製造業（飲食や宿泊など）において、人手不足を既存の従業員による時間外労働で対応している企業も多い。

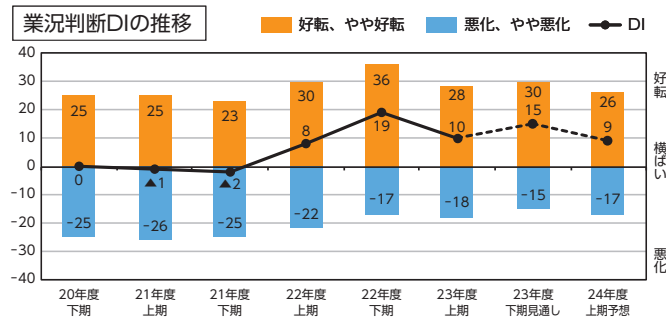
## 生成AI（人工知能）の活用

生成AIを業務で利用している企業は5%程度、利用を検討している企業も約15%と、活用は進んでいない。

### 1. 業況判断 ～製造業・非製造業ともに低下～

業況判断 DI推移	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度
	下期実績	上期実績	下期実績	上期実績	下期実績	上期実績	下期見通し	上期予想	
全体	0	▲1	▲2	8	19	10	15	9	
製造部門	11	2	1	10	18	3	12	2	
非製造部門	▲6	▲3	▲2	6	19	14	17	14	

DI=（「好転」、「やや好転」企業の割合）-（「悪化」、「やや悪化」企業の割合）



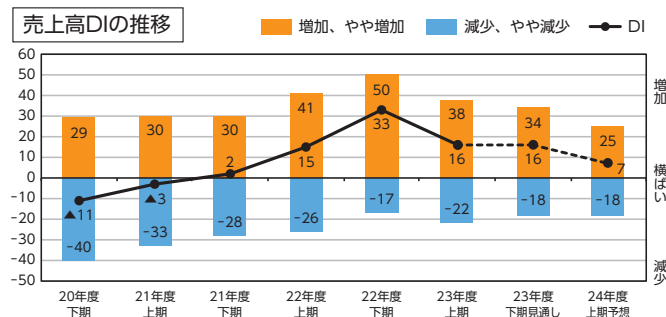
全産業の2023年度上期実績DIは+10と、前期比9ポイントの低下。製造業では「食料品」「機械器具」、非製造業では「宿泊業」「飲食」に改善がみられるものの、「農林水産」や「情報サービス・放送」など低下している業種も多い。

2023年度下期見通しDI+15（前期比5ポイント好転）、2024年度上期予想DI+9（同6ポイント悪化）については慎重な見方をしている企業が多い。

### 2. 売上高 ～製造業・非製造業ともに減少～

売上高 DI推移	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度
	下期実績	上期実績	下期実績	上期実績	下期実績	上期実績	下期見通し	上期予想	
全体	▲11	▲3	2	15	33	16	16	7	
製造部門	▲7	▲5	▲1	8	32	1	7	▲5	
非製造部門	▲14	▲3	4	19	33	25	20	13	

DI=（「増加」、「やや増加」企業の割合）-（「減少」、「やや減少」企業の割合）



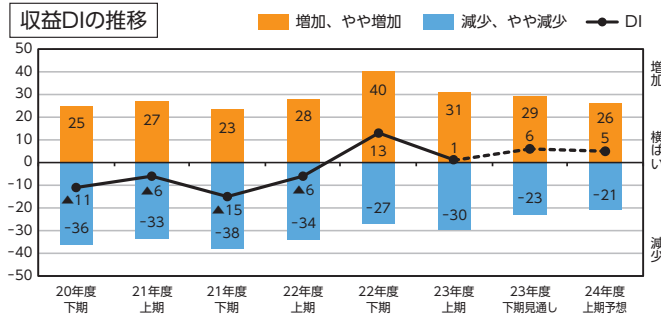
全産業の2023年度上期実績DIは+16と、前期比17ポイントの減少。製造業では「印刷・同関連産業」、非製造業では「宿泊業」が主に増加しているものの、「農林水産」や「建設」など、製造業において減少している業種が目立つ。

2023年度下期見通しDIは+16（前期比±0ポイント）、2024年度上期予想DIは+7（同9ポイント悪化）と、横ばいで推移する見通し。

### 3. 収益 ～製造業・非製造業ともに減少～

収益判断	DI推移								
	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度
	下期実績	上期実績	下期実績	上期実績	下期実績	上期実績	下期見通し	上期予想	
全 体	▲11	▲6	▲15	▲6	13	1	6	5	
製 造 部 門	▲10	▲10	▲18	▲10	11	▲15	1	▲7	
非製造部門	▲11	▲4	▲14	▲4	14	10	9	11	

DI=(「増加」、「やや増加」企業の割合)-(「減少」、「やや減少」企業の割合)



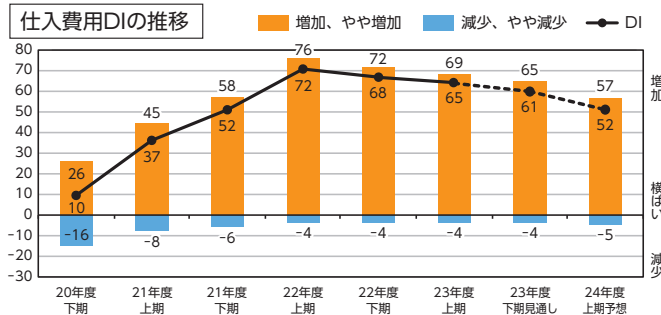
全産業の2023年度上期実績DIは+1と、前期比12ポイントの減少。製造業では「機械器具」、非製造業では「宿泊業」「飲食」が主に増加しているものの、「木材・木製品」や「農林水産」など製造業において減少している業種が目立つ。

2023年度下期見通しDIは+6（前期比5ポイント好転）、2024年度上期予想DIは+5（同1ポイント悪化）と、好転傾向の見通し。

### 4. 仕入費用 ～製造業・非製造業ともにほぼ横ばい～

仕入費用判断	DI推移								
	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度
	下期実績	上期実績	下期実績	上期実績	下期実績	上期実績	下期見通し	上期予想	
全 体	10	37	52	72	68	65	61	52	
製 造 部 門	16	50	63	83	68	67	60	51	
非製造部門	7	30	46	67	68	63	61	53	

DI=(「増加」、「やや増加」企業の割合)-(「減少」、「やや減少」企業の割合)



全産業の2023年度上期実績DIは+65と、前期比3ポイントの減少。製造業では「食料品」「印刷・同関連産業」、非製造業では「宿泊業」「飲食」で大きく増加。原材料コスト高騰等の影響が続いていることがうかがえる。

2023年度下期見通しDIは+61（前期比4ポイント減）、2024年度上期予想DIは+52（同9ポイント減）と依然高い水準の見通し。

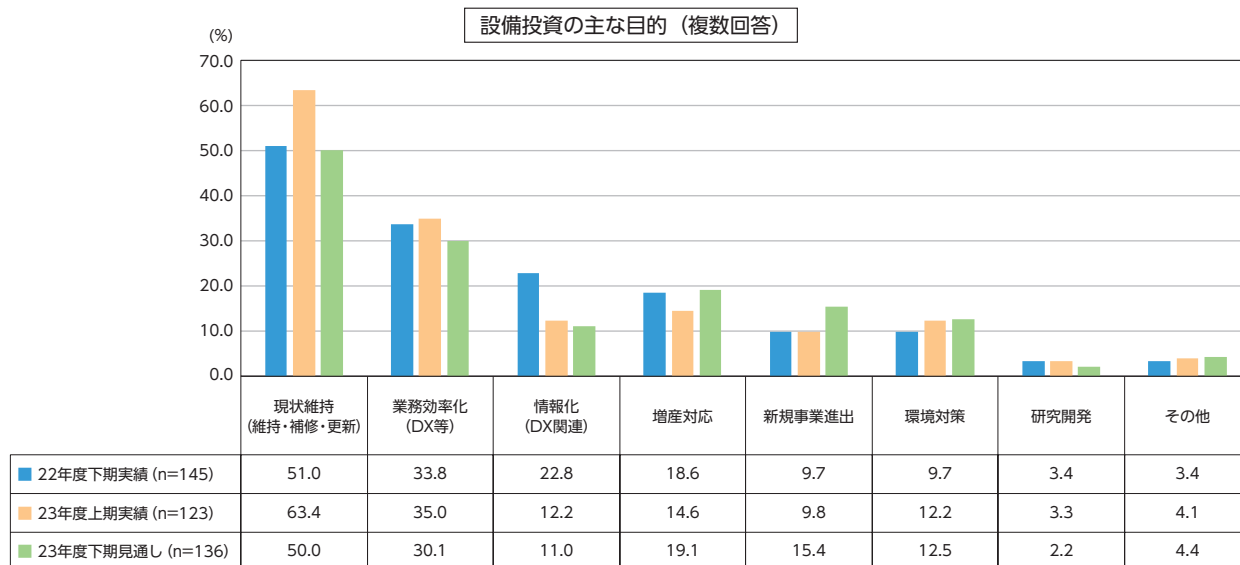
### 5. 設備投資

設備投資の実施状況	(単位：%)								
	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度
	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	
全 体	45	42	45	48	43	37	41	38	
製 造 部 門	45	41	43	54	53	41	43	39	
非製造部門	45	42	46	46	37	35	40	38	

2023年度上期までは実績、2023年度下期は見通し・2024年度上期は予想

全産業の2023年度上期実績は37%（前期比▲6%）。2023年度下期は増加見通しだが、2024年度上期は減少予想となっており、先行きについては慎重な見方。

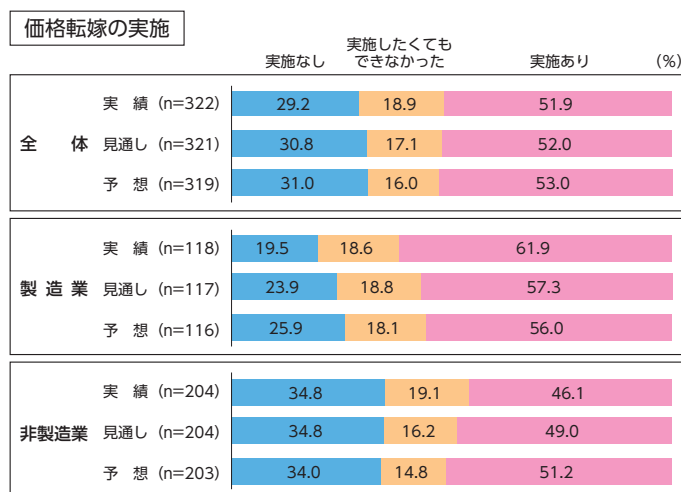
## ●設備投資の主な目的



2022年度下期実績、2023年度上期実績、2023年度下期見通しすべてにおいて、「現状維持（維持・補修・更新）」が最多で、次いで「業務効率化」。

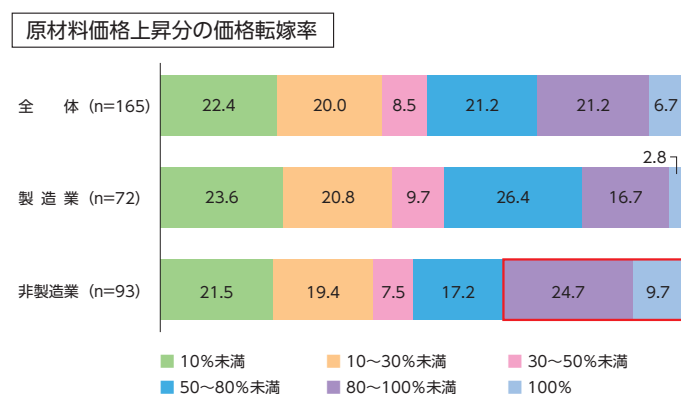
## 6. 原材料価格等の上昇による価格転嫁

### (1) 原材料価格等の上昇による価格転嫁の実施



価格転嫁を実施している企業は、製造業は6割以上、非製造業は5割近く。また、実施したくてもできなかった企業が約2割。前回調査2023年4月時点における価格転嫁実施率は製造業61.2%で前回より増加、非製造業は49.1%で前回より減少している。今後（見通し・予想）実施する企業は全体で増加しているものの、製造業では減少している。

### (2) 原材料価格等上昇分の価格転嫁率

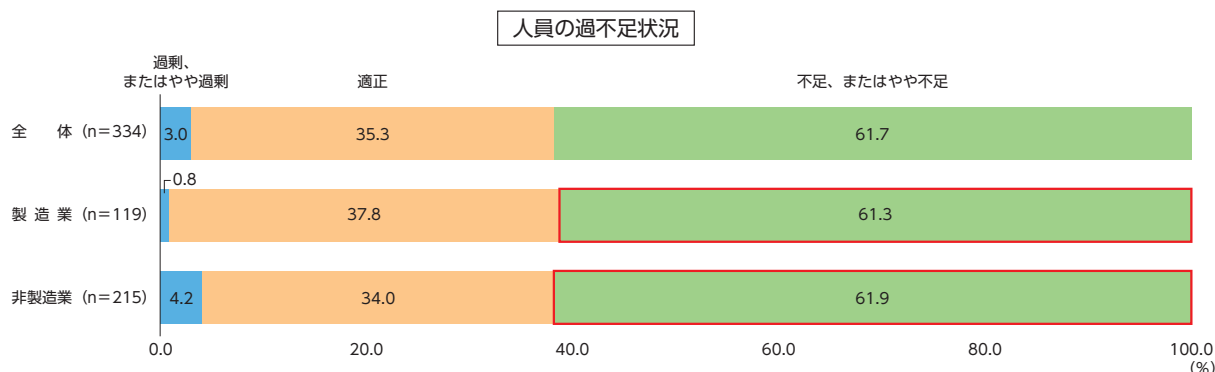


価格転嫁を実施している企業のうち、原材料価格上昇分をすべて(100%)価格転嫁できている企業は全体で7%程度。価格転嫁率50%以上の企業が増え、全体49.1%、製造業45.9%、非製造業51.6%となっている。（※前回調査時における価格転嫁率50%以上は全体38.9%、製造業36.6%、非製造業40.3%）。中でも非製造業は、転嫁率80%以上の企業が増えた。



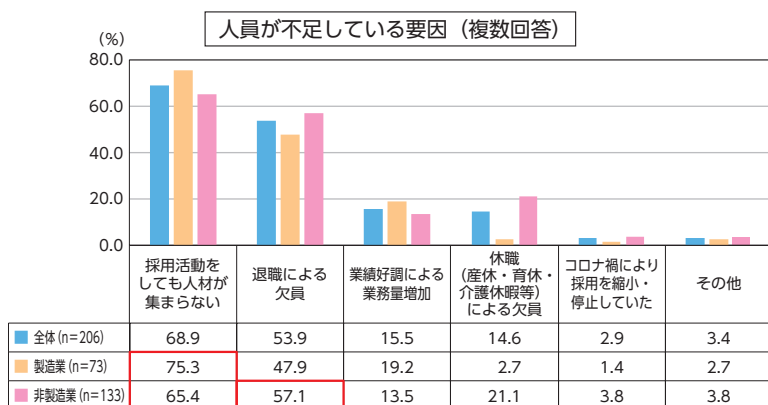
## 7. 人員と時間外労働

### (1) 人員の過不足状況



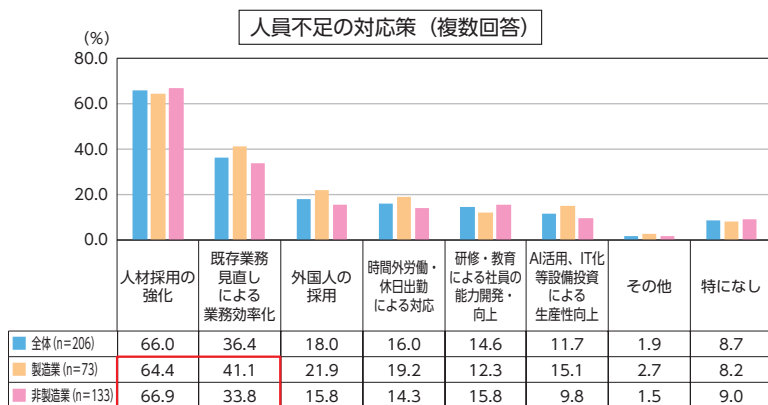
人員が「不足（やや不足含む）」している企業は、製造業・非製造業ともに6割以上を占めている。製造業では「食料品」、「建設」、「農林水産」、「機械器具」、非製造業では「飲食」、「医療・保健衛生」、「運輸・通信」、「小売」、「宿泊」などで「不足」の割合が高かった。また、2022年度上期調査（2022年10月時点）で、「不足（やや不足含む）」していると回答した製造業は56.4%、非製造業47.5%と、前年同期と比べ、特に非製造業で増加している。新型コロナウイルス5類移行による人流や消費の回復などを背景に人手不足感が高まっていることがうかがえる。

### (2) 人員が不足している要因



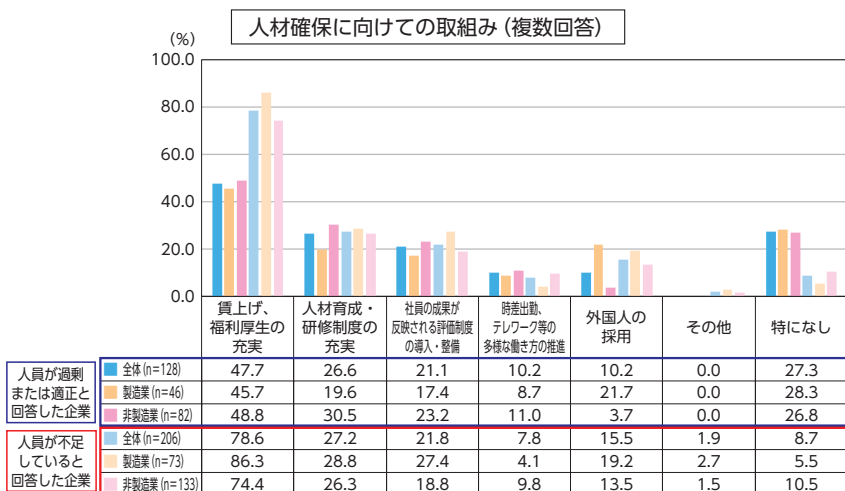
人員が「不足（やや不足含む）」している企業において、人員が不足している要因として「採用活動をしていても人材が集まらない」と回答している企業が製造業・非製造業ともに最も多く、製造業では7割以上、非製造業では6割以上を占めている。人材確保の難しさがうかがえる結果となっている。また、「退職による欠員」も多く、非製造業では6割近くとなっている。

### (3) 人員不足の対応策として実施・検討していること



人員が「不足（やや不足含む）」している企業において、人員不足の対応策として行っていることは、製造業・非製造業ともに「人材採用の強化」が最も多く6割以上を占めている。採用活動をしていても人材がなかなか集まらないということもあり、採用力を強化することで人材を多く集めようとしている企業が多いようだ。次いで「既存業務見直しによる業務効率化」が多く、製造業では約4割、非製造業では約3割となっている。

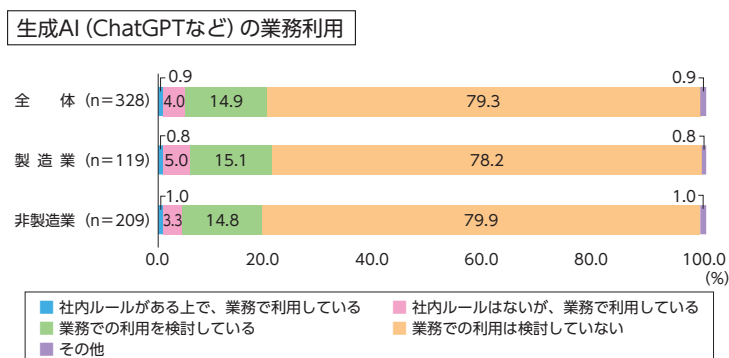
#### (4) 人材確保に向けて行っている取り組み



人員が「過剰（やや過剰含む）」または「適正」と回答した企業、人員が「不足（やや不足含む）」していると回答した企業ともに、人材確保の取り組みとして最も多かったのは「賃上げ、福利厚生の充実」で、特に人員が不足している企業においては8割近くを占めていた。人手不足解消には、賃上げが欠かせないようだ。

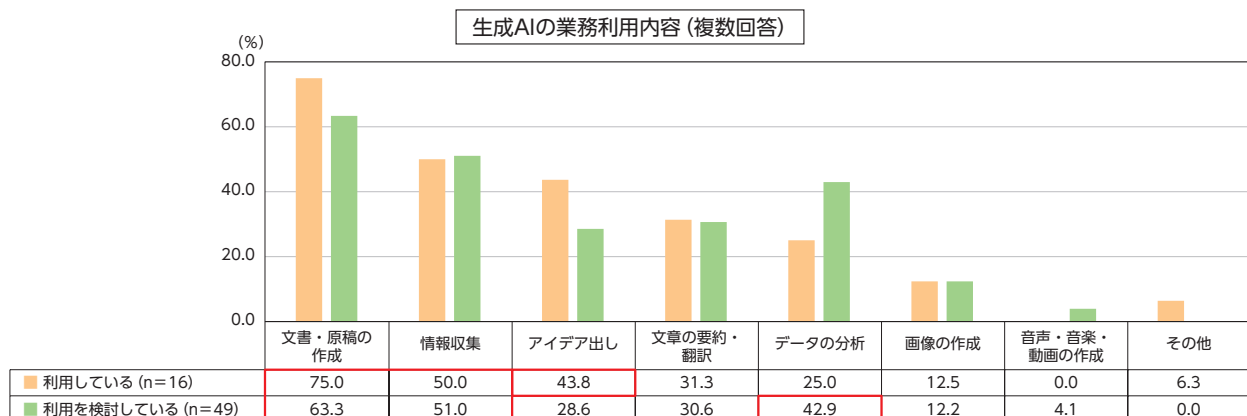
## 8. 生成AI（人工知能）の活用

### (1) 生成AI（ChatGPTなど）の業務利用



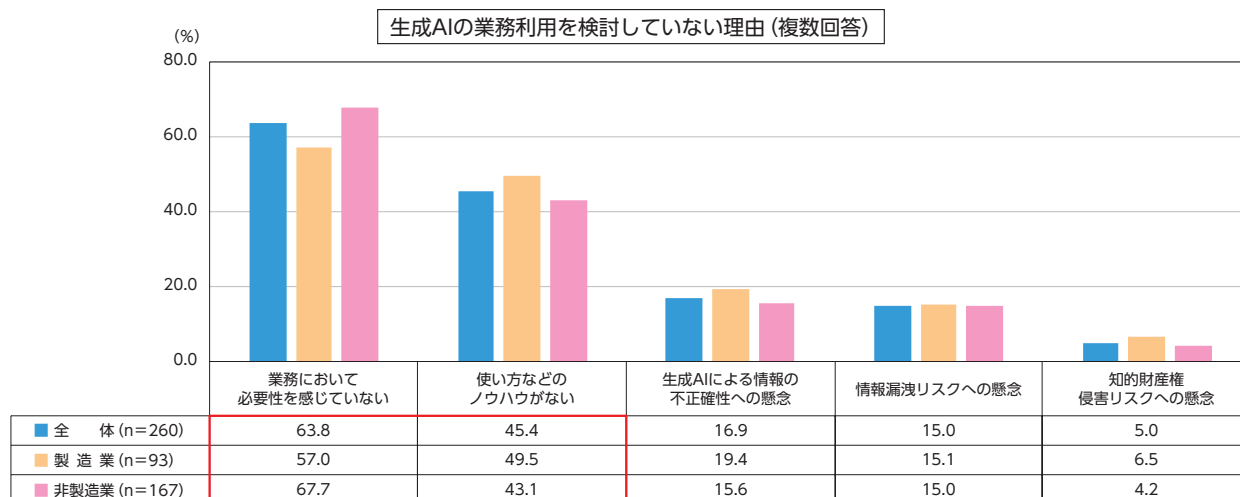
ChatGPTなどの生成AIを業務で「利用している（社内ルールあり・なしでの利用含む）」企業はわずか5%程度、「利用を検討している」企業は全体で約15%と、活用はまだ進んでいないことがうかがえる。製造業・非製造業ともに8割近くの企業が「業務での利用は検討していない」。

### (2) 生成AIの業務利用内容



ChatGPTなどの生成AIを「業務で利用している（社内ルールあり・なしでの利用含む）」企業において、どのような業務で生成AIを利用しているかについては、「文書・原稿の作成」での利用が最も多く、次いで、「情報収集」、「アイデア出し」。「利用を検討している」企業の中では「文書・原稿の作成」、「情報収集」のほかに「データの分析」で利用を考えている企業が多い。

### (3) 生成AIを業務での利用を検討していない理由



生成AIの「業務での利用を検討していない」企業において、利用の検討をしていない理由として、「業務において必要性を感じていない」が最も多く全体で6割以上。非製造業では7割近くを占めている。次いで「使い方などのノウハウがない」が4割以上。生成AIの具体的な活用場面や使い方などの想定ができていないということが主な要因のようである。

## まとめ

2023年度上期の業況判断DI（実績）は、前回より低下。仕入費用は減少傾向にありつつも、先行きについては慎重な見方となっている。

価格転嫁を既に行っている企業は、全体で5割以上。そのうち、価格転嫁率50%以上の企業が増えている。中でも非製造業は、80%以上の企業が増えた。

新型コロナ5類移行による人流や消費の回復などを背景に、非製造業を中心に人手不足感が高まっている。しかし、採用活動をしてなかなか人材が集まらず、人材確保が課題となっている企業も多い。

### ひめぎん情報 2024新春号 No.302

発行／株式会社 愛媛銀行 ひめぎん情報センター  
〒790-8580 松山市勝山町2丁目1番地  
TEL (089) 933-1431  
FAX (089) 933-1207  
URL <https://www.himegin.co.jp/>  
e-mail [hisc015@himegin.co.jp](mailto:hisc015@himegin.co.jp)

印刷／エンジニアネットワーク株式会社  
〒799-3101 愛媛県伊予市八倉310番地2  
TEL (089) 927-2288



# あなたの資産を AI自動運用

適切なタイミングで、  
適切な投資配分を目指す



詳しくは、お近くの愛媛銀行窓口またはフリーダイヤルへ。



**0120-22-0576**

月～金(祝日除く) 9:00～17:00

<https://www.himegin.co.jp/>

「ひめぎんラップ/ROBO PRO AIラップ」は、預金ではなく投資一任契約に基づくサービスのため、元本保証および利回り保証のいずれもなく、また、預金保障制度の対象ではありません。金融商品の取引においては、金利水準、株式相場、不動産相場、商品(コモディティ)相場等の変動による購入元有価証券の値動き及び為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。ご投資の際にかかる手数料等およびリスクの詳細については、愛媛銀行ウェブサイトの当該金融商品のページ、契約締結前交付書面、投資対象ファンドの交付目録見書等の内容を十分にご確認ください。

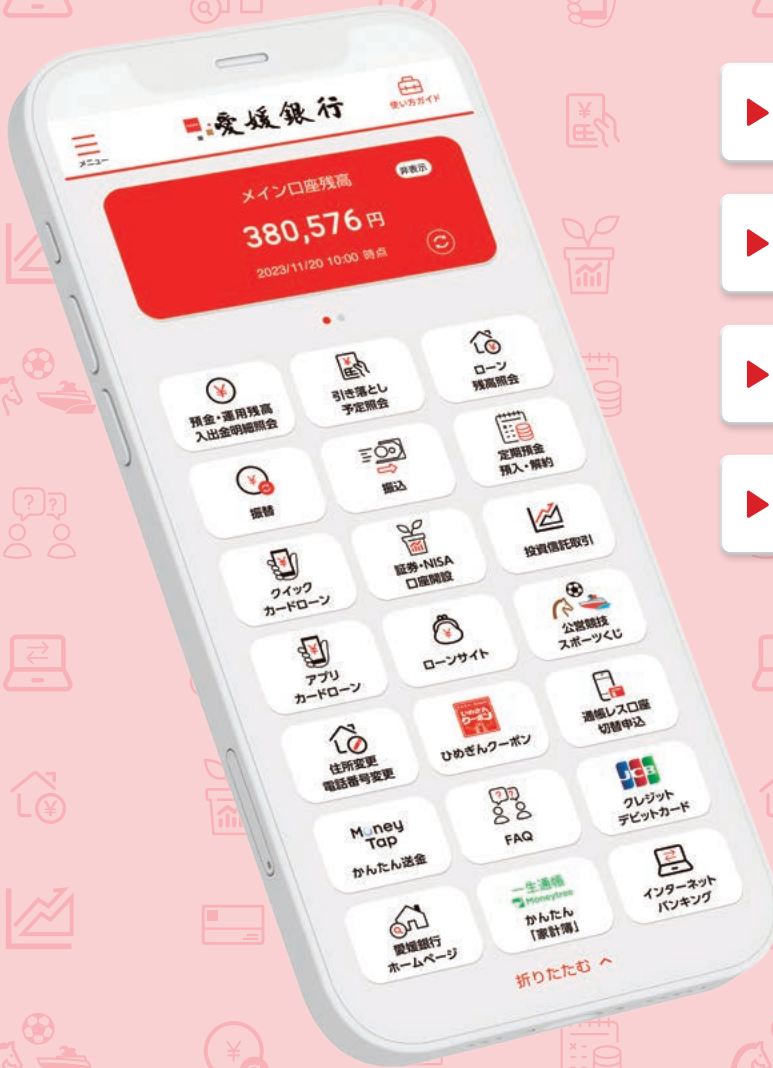
 **愛媛銀行**

株式会社 愛媛銀行 株式会社 FOLIO  
登録金融機関 四国財務局長(登念)第 6 号 加入協会:日本証券業協会 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 2983 号 加入協会:日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会  
(2023年4月現在)

ひめぎん

# ひめぎんアプリ

普通預金・投資信託・NISAの口座開設から投資信託売買まで、  
アプリで完結するサービスが増えてますます便利になりました!!



▶ 普通預金口座開設

▶ 投資信託口座開設 **NEW**  
(証券口座開設)

▶ NISA口座開設 **NEW**

▶ 投資信託売買 **NEW**

▶ 定期預金作成  
アプリ特別金利

▶ カードローン  
借入・増額・返済

▶ ひめぎんポイント倶楽部  
ギフト交換

▶ ひめぎんクーポン

ひめぎん 愛媛銀行

商号等 | 株式会社 愛媛銀行 登録金融機関 四国財務局長(登録)第6号  
加入協会 | 日本証券業協会

ひめぎんアプリ



ひめぎんアプリ  
使い方のガイド



(2023年11月20日現在)